

「平成 29 年度 森林研究・整備機構営事業 事後評価 技術検討会
「黒潮フルーツライン区域」議事録」

日時：平成 29 年 7 月 4 日（火）10：00～12：00

場所：農林水産省 本館地下 1 階 会議室

- 事務局：ただいまより、平成 29 年度 森林研究・整備機構営事業 事後評価「黒潮フルーツライン区域」技術検討会を開催いたします。開催にあたり、1 点確認いたします。
- 技術検討会は、透明性の確保から公開するものとし、プレス取材や一般の傍聴ができるものとしています。
- 本技術検討会の開催について、6 月 23 日に農林水産省よりプレスリリースするとともに農林水産省ホームページにおいて公表し、傍聴の申込みを受け付けましたところ、傍聴の方が 1 名おられますので、御了承いただきたいと思えます。
- また、同じく透明性を確保するという観点から、議事概要及び議事録については公表とします。公表に際しては、各委員の御発言と御名前を付すこととします。議事録は各委員の御確認後に公表となります。御理解をよろしくお願いいたします。
- 開催に先だち、森林整備センター事業事後評価委員会の委員長であります森林研究・整備機構森林整備センター農用地業務室の腰山室長より、御挨拶申し上げます。
- 腰山室長：技術検討会の開催に当たり、一言御礼と御挨拶をさせていただきます。委員の先生方にはお忙しいところ、本日は、事後評価技術検討会に御出席いただきまして、ありがとうございます。
- また、5 月には黒潮フルーツライン区域の現地調査に御参加いただきましてありがとうございます。
- 本日は、議事次第にもありますとおり、関係団体の意見の報告と事後評価書（案）の説明をしまして、その後、評価書に記載する技術検討会の意見の取りまとめをしていただく予定となっております。
- 意見の取りまとめにあたりましては、私どももこの評価をより適切なものにしたと思っていますのと、評価結果が地元のためになるような評価として取りまとめたいと考えております。そのような観点で皆様の御意見をいただき、その結果を取りまとめていただければと思います。よろしくお願いいたします。
- 事務局：ありがとうございました。続きまして、技術検討会出席者の御紹介に入りたいと思います。
- （技術検討会委員紹介、事後評価委員等紹介）
- 事務局：次に、森林研究・整備機構森林整備センター事業事後評価技術検討会規則に基づき、委員の中から委員長の選出をお願いしたいと思います。規則において、「委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める」となっております。事務局案として、浅野委員に委員長をお願いしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。
- （各委員より：賛成との声あり）
- 事務局：浅野委員に技術検討会の委員長をお願いします。浅野委員長より御挨拶をお願いします。

浅野委員長： あらためまして、浅野です。先般、5月16日に現地を見させていただきまして、現地の生の声を関係団体や受益者の方々から聞かせていただきました。いかに梅によって地域自身が力を得ているか、並びに、この事業が梅の産地形成においていかに力を与える事業になっているかを見せていただきました。

このような状況をきちっと評価書の中に技術検討会の意見としてうまく取りまとめたいと思っていますので、委員の皆さんも忌憚のない御意見をよろしく願います。

事務局： ありがとうございます。続いて議事となりますが、議事に入る前に資料を確認させていただきます。
(資料を順に確認)

浅野委員長： それでは早速、議事に入りたいと思います。議事次第(1)関係団体の意見の報告について、事務局より説明をお願いします。

事務局： 説明させていただきます。

「黒潮フルーツライン区域」の関係団体は、和歌山県、印南町、みなべ町の3団体となっています。

提出された意見を読み上げて報告とします。

和歌山県 農林水産部長

本地域は、紀伊半島の南部に位置しており、和歌山県の中南部いわゆる“紀南”の入口的存在の地域である。温暖な気候を活かし、海岸付近の平野部には暖地園芸型作物を中心とする畑作地帯が広がり、山間部では南高梅に代表される果樹栽培が盛んであり県下有数の農業地帯となっている。

地域の流通の基幹は国道42号であり、朝夕、土日、夏休み期間の交通渋滞が顕著であり、流通の改善が長年の課題であった。また、農地においては施設、露地野菜、花卉、果樹等の多彩な農業が展開されているものの、低地部での排水不良、不整形な農地、山間部での急傾斜な樹園地など基盤整備の遅れが指摘されていた。

そのような状況の中、本事業の実施により農地の汎用化、営農労力の軽減、通作・輸送交通の改善がなされ、少子高齢化による後継者不足や農産物価格の低迷など、厳しい農業環境の中でも優良農業地帯としての地位を守り続けている。

県としては、今後も本地域の農業を主要産業として維持・発展させていくべき地域と考えており、本事業が大きな役割を果たしたと評価している。

(平成29年6月6日受領)

印南町長

本事業区域では、農業用道路をはじめ暗渠排水の整備、区画整理等が実施され、地域農業の活性化に広く貢献している。

農業用道路である黒潮フルーツラインは、隣接するみなべ町との間に新たに開通した路線であり、周辺農業集落の利便性を高めるだけでなく、災害等非常時の輸送路線としての活用も期待されている。

また、本事業で実施された区画整理では、周辺の農業者の意向が取り入れられた結果、道路・水路等に特徴的な配置がみられ、営農環境の改善に特段の効果が発揮されている。

今後も本事業による各施設は、地域の農業振興を図る中で重要な役割を果たしていくものと期待する。

(平成 29 年 6 月 2 日受領)

みなべ町長

フルーツラインについては、農地造成へのアクセスが良く、樹園地の管理、収穫時期の時間短縮により効率よく作業ができる。

また、農地造成については、作業がしやすく梅の収穫量も徐々に安定してきている。区画整理についても作業効率が良く、パイプラインにより用水が安定し、収量、品質が向上した。

一般的にみなべ町における黒潮フルーツライン区域では、良い効果が出ている。

(平成 29 年 6 月 9 日受領)

以上です。

浅野委員長： ありがとうございます。この関係団体の意見は、機構営事業事後評価実施要領のなかに、事後評価の実施に当たっては「事後評価委員会は、関係団体の意見を聴いた上で、事後評価の結果をとりまとめるものとする」という規定があり、事後評価委員会では意見の内容を評価の中でとりまとめるというものです。併せて、技術検討会でもこの意見を踏まえて、技術検討会の意見を取りまとめることとなります。

浅野委員長： それでは、議事次第（2）事後評価結果（案）について、事務局より説明をお願いします。

事務局：（事後評価結果（案）、事業の効用に関する説明資料、評価書の修正についてを説明）

浅野委員長： 基本的に、今の事務局から説明のあった事後評価（案）については、事務局や事後評価委員会においてまとめられた成果であって、この成果について、認識不足や誤りがあるかも知れないので、疑問や質問、あるいは、ここは修正した方が良いといったコメントしていくというものです。

私たちの仕事としては、技術検討会として独自の考え方、意見を取りまとめて、評価書に記載していくことです。ただ前提として現状認識に間違いはないか、技術的にみて問題はないか、ここで指摘しておくということです。

今回は、資料3にあるようにうめを区分けしたり、単収を見直したり、現地での意見を取り入れて整理されたものになっているとみているのですが、委員の方々から何か質問や意見はありませんか。

飯田委員： 青うめと漬うめに区分してわかりやすくなりましたが、P4の生産量について、うめの生産量が減少した理由として、「天日干し等により重量が軽くなる漬うめが多いから」とありますが、青うめにおいても計画の現況値より単収が下回っていますがその理由はなんですか。

事務局： 青うめの単収については、統計資料により平成10年から平成25年までの関係町における単収の推移を整理し確認を行っております。このうち事業計画時では平成

10年～14年の平均単収を採用しており、事後評価時では平成21年～25年の単収のうち異常年の単収を除いた2か年の平均単収を採用しております。

事業計画時の現況と比較して減少している理由については、事業計画時に使用した年次の単収が高く推移していたことが原因ではないかと考えられます。また、事後評価時ではこの期間（平成10年～25年）における平均値に近い値となっており、地域における平均的な青うめの単収を採用しているものと考えています。

飯田委員： 漬うめは天日干しにより単収が減少しているということは理解できますが、青うめが事業計画時と比較して減少している理由について、例えば、事業計画時の平成10年～14年では豊作年が続いたためといったような記載があってもよいのではないかと思います。

岩本委員： 過去の平均値より下がっている年については、うめの価格も下がっている年となっています。段々とうめが売れなくなり、農家からの仕入れ価格がどんどん下がってきています。

飯田委員： うめの価格が下がった時には、実ったうめを収穫しない場合もありますか。

岩本委員： 一昨年は豊作でしたが、収穫しない方もいました。青うめも漬うめも安くなってきており、収穫しすぎないように調整することはあると思います。

浅野委員長： うめの価格が下がった時は、青うめと漬うめはどっちにした方が有利ですか。

岩本委員： 漬うめにしておいた方が保存できるので、価格が高くなるまで待つという方もいます。

浅野委員長： 価格条件が変わることによって、生産高も調整できるので単収に影響する場合も考えられるということですね。ただ、私は、単収は少し下がるはいるけれど、そういう色々な要因があるので、確率的な変動の範疇ではないかと思います。

飯田委員： 公表される評価書では、そういった事情が分かるように記載しておいた方がよいと思います。

浅野委員長： 漬うめについては説明があるが、青うめについては説明が無いので、事務局や事後評価委員会で御検討いただければと思います。

橋本委員： 同じく生産量のところですが、青うめ用も漬うめ用も基本的には単収は一緒ではないでしょうか。漬うめは加工して重量が軽くなっているだけで生産量としては一緒であるべきと考えます。生産量は一緒であるが加工して売るときに付加価値が付いて生産額として差が出てくるというストーリーの方がよい。

評価書では、漬うめを乾燥させた時の重量を使っていることで、うめの生産量が不当に下がっているように見えます。収穫物としてのうめそのものの単収は青うめと同じにして漬うめ用として記載した方がよいのではないかと思います。

事務局： 生産額は、漬うめとして加工後の単価に生産量を乗じて算出することから、これ

に対応する生産量となると天日干しで軽くなった状態の単収により算出した値を表中に記載しているところです。

浅野委員長： どちらのデータがオリジナルのデータかということが問題となっていて、得られるデータとしては青うめと漬うめのそれぞれの単収しか分からないので、漬うめについては、加工した後の価格、重量で整理しているということですね。

事務局： はい。漬うめについては、加工した後の価格、重量で表しています。

橋本委員： 生産量と記載があるので生の状態という概念があるのに加工後の重量が漬うめとして示されています。別に、単収として下がっているものでなく意図的に加工して重量が下がっているものなので、うめ全体としての生産量が下がっているように見えることが妥当ではないように思います。注釈でもよいが、単収としては、青うめと同程度であるが加工していることから加工後の重量となっているということを説明しておいた方がよいのではないのでしょうか。

浅野委員長： 漬うめ用として生産されたうめが全部でどれくらいの重量があって、加工したことでどのくらいの重量になったかというデータがあればいいが、現在信頼できるデータとしては漬うめになった状態のものしかないもので、元へ降り戻すことはデータを加工することになるので整理が難しいと考えられる。

ただ、漬うめの単収については、通常言われているような農家の庭先での値とは違うことを注釈で整理するというのでいかがでしょうか。

飯田委員： 事業計画時のデータを青うめと漬うめに区分することはできないのでしょうか。

事務局： 事業計画時では青うめ相当で整理がなされており、区分することは難しい。

浅野委員長： その他、よろしいですか。それでは、最後、私たちの本業となります技術検討会の意見の取りまとめ作業となります。取りまとめ作業の進め方について、事務局より提案があるということですので、お願いします。

事務局： 進め方について、事務局より提案させていただきます。意見の取りまとめ作業につきましても、技術検討会委員の皆様で行っていただきますが、ワープロ打ち等作業補助として事務局も参加したいと思います。

それ以外の方は、いったん退室していただき、取りまとめ作業が終わるまで、待機していただきますようお願いいたします。

取りまとめ作業はおおむね30分間で行っていただきたいと思います。11時10分までの取りまとめを目標として進めていただきたいと思います。

浅野委員長： 取りまとめ作業の進め方について、よろしいでしょうか。皆さんに退室していただいて、私たちと書記の方だけ残して、意見を取りまとめたいと思います。

(各委員より：異議なしとの声あり)

浅野委員長： そのようなやり方で作業をしたいと思います。それでは、意見の取りまとめに入ります。作業補助以外の方は、退室をお願いします。

(技術検討会の意見とりまとめ)

(休 憩)

(評価委員の再入場により再開)

浅野委員長： それでは「黒潮フルーツライン区域」事後評価技術検討会としての意見を読み上げます。

南高梅をはじめ、スターチス、えんどうなどが全国有数の産地となっている本地域において、本事業により整備された農用地や農業用道路は、地理的条件を活かした産地の競争力強化、農産物流通の改善に寄与し、地域の活性化に大きく貢献するものと評価できる。

(農用地整備)

区画整理により、区画の整形・拡大、耕作道や用水施設等が整備されたことにより、機械作業が容易となり、農作業の効率化、営農経費の節減に貢献している。

また、区画整理に伴い実施した換地により、河川改修に必要な用地を生み出し、県営事業により河川が改修されたことで洪水被害がなくなり、裏作の増加を可能とした。

暗渠排水により、排水不良が改善された農地では、多様な野菜や花きの作付けが図られるとともに、農用地造成により生み出された緩勾配農地では地域の特産物である「南高梅」栽培の作業性が大幅に改善され、生産性の向上に貢献している。

(農業用道路)

整備された農業用道路は、農産物輸送や耕作者の通作に係る時間短縮、林業作業の効率化とともに、隣接する御坊市や田辺市への買い物や通勤、通学など日常生活の利便性の向上に貢献している。

また、山間部を通る農業用道路は、大雨や津波等の災害時には代替路として機能することから、自然災害への備えにとどまらず、緊急搬送路としての役割も果たし、地域住民の生活の安心感の向上に寄与している。

(今後の農業振興や地域振興に向けて)

本地域では、梅のトップブランド「南高梅」、スターチスなど多様な農作物が生産されている。今後、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」のブランドを活かした情報発信を行い、国内外の観光客増加を通じた消費・インバウンド消費・輸出の拡大や南高梅を中心とした6次産業化のさらなる発展を図ることが重要と考える。これにより、農家の収益性の向上が図られ、後継者が育成されることを期待する。

(費用対効果の算定手法における課題)

現在の費用対効果の算定手法においては、主要農作物や資材の価格変動の気候等による年々の過度の不規則性を考慮するための手順が十分に標準化されていないことが危惧されるので、この点については検討が必要である。

以上を技術検討会の意見とします。委員の皆様のご協力に感謝します。

予定していた議事を全て終了しましたので、進行を事務局にお返しします。

事務局 : 浅野委員長ありがとうございました。委員の皆様、長時間の御検討、ありがとうございました。

本日の技術検討会の議事概要及び議事録は、農林水産省のホームページで公表する予定となっております。議事概要については時間的な余裕がないため、委員長に内容を御確認いただくことで御了解をお願いしたいと思います。

また、議事録については、事務局で早急に整理のうえ、電子メールもしくは郵送にて送付させていただきますので、各委員に御確認をお願いいたします。

評価書(案)は、本日御指摘いただきました内容について修正させていただきます。評価書(案)は、最終的に8月末を目途に、農林水産省のホームページで公表となる予定です。

閉会にあたりまして、農林水産省農村振興局農地資源課の松岡調査官より御挨拶をお願いします。

松岡調査官 : 本日は、農用地総合整備事業「黒潮フルーツライン区域」の技術検討会ということで、熱心に御議論いただきまして、ありがとうございました。また、技術検討会の御意見を取りまとめいただきましてありがとうございます。

この黒潮フルーツライン区域につきましては、南高梅をはじめとして、地域の強みを活かすべく、この事業で農用地や農業用道路が整備され、今後の活用も含めて伸びしろのある地域になっていると考えています。

先生方からいただきました本日の御意見、現地調査時の御助言を踏まえ、農林水産省としても、今後、この区域にとどまらず、さまざまな事業に御意見を反映していきたいと思っていますので、引き続き、御指導・御鞭撻をいただきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひ致します。

事務局 : これにて平成29年度 森林研究・整備機構営事業 事後評価「黒潮フルーツライン区域」技術検討会を閉会します。本日はありがとうございました。

(閉 会)

「黒潮フルーツライン区域」 事後評価技術検討会
出席者名簿

○事後評価技術検討会委員

氏名	専門分野	所属	備考
浅野 耕太	環境経済	京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授	委員長
飯田 俊彰	農業土木	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授	
岩本 恵子	地域振興	みなべ町商工会 理事 みなべおかみ元気会 会長	
橋本 禅	農村計画	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授	

○事後評価関係者

氏名	役職	所属	備考
腰山 達哉	室長	森林研究・整備機構森林整備センター 農用地業務室	
松岡 伸一	調査官	農林水産省農村振興局整備部 農地資源課	
秋田 憲司	課長	農林水産省近畿農政局農村振興部 土地改良管理課	
坂本 義浩	上席参事	森林研究・整備機構森林整備センター 農用地業務室	
高木 繁光	参事	森林研究・整備機構森林整備センター 農用地業務室	
山本 貴則	課長補佐	農林水産省農村振興局整備部 農地資源課	
佐藤 永三	参事	森林研究・整備機構森林整備センター 農用地業務室	